

# === T A C S 情報 第6号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和7年7月1日

農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過

### (1) 気温

5月の平均気温は、17.7℃（対平年差+0.2℃）と平年並であった。

6月上中旬の平均気温は、22.4℃（同+1.6℃）と平年に比べかなり高かった。

6月下旬の平均気温は、25.5℃（同+3.0℃）と平年に比べかなり高かった。

### (2) 降水量

5月の降水量は、122.0mm（対平年比99%）と平年並であった。

6月上中旬の降水量は、69.0mm（同95%）と平年並であった。

6月下旬の降水量は、60.0mm（同60%）と平年に比べ少なかった。

### (3) 全天日射量

5月の平均全天日射量は、18.4MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比100%）と平年並であった。

6月上中旬の平均全天日射量は、17.9MJ/m<sup>2</sup>/日（同98%）と平年並であった。

6月下旬の平均全天日射量は、18.6MJ/m<sup>2</sup>/日（同123%）と平年に比べ多かった。

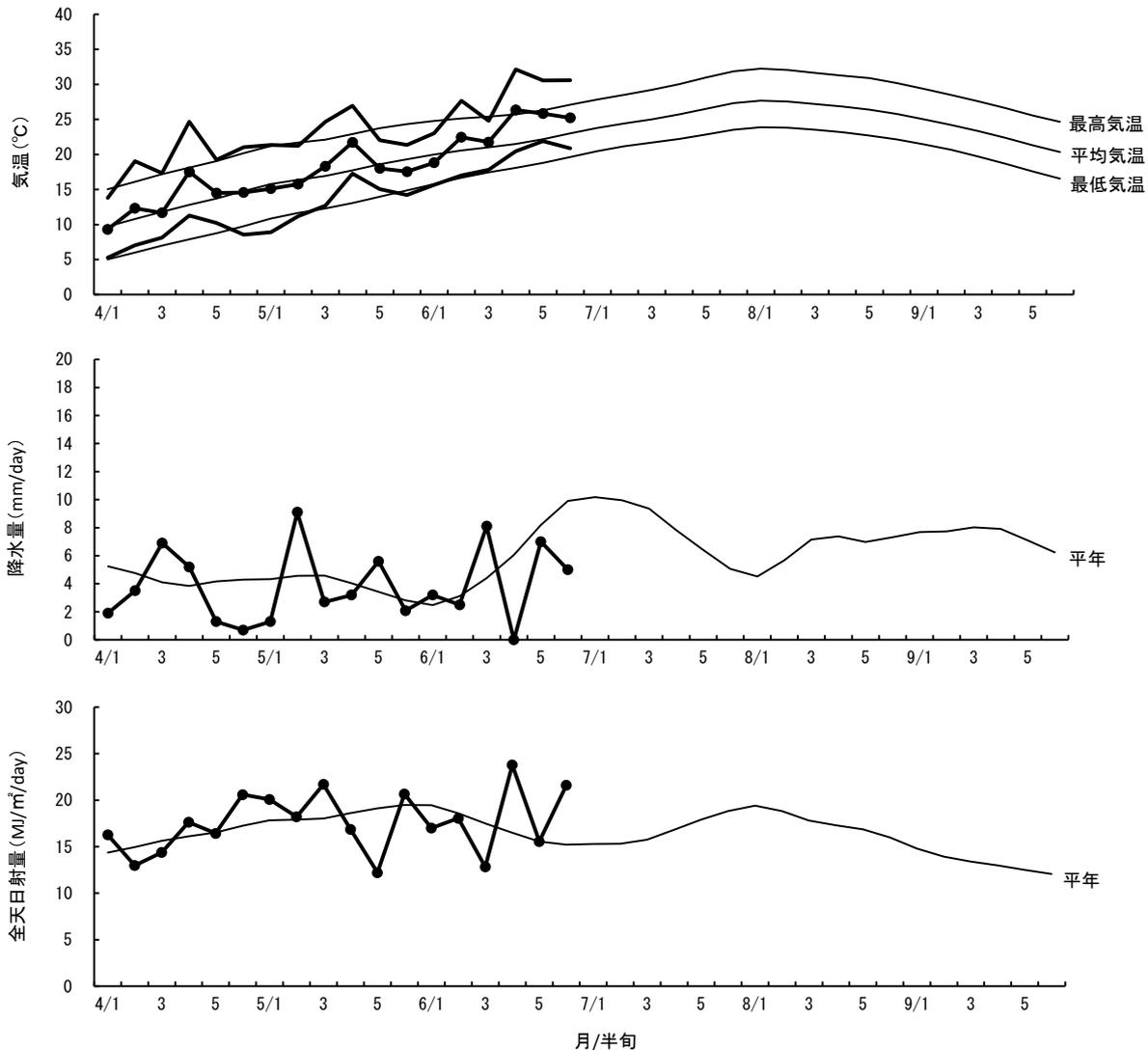


図1 令和7年の気象経過（富山地方气象台）

## 2 生育状況（生育観測ほデータ）

### (1) てんたかく

平年に比べ、草丈、葉齢は並、茎数はやや少なく、葉色はやや淡くなっている。

幼穂形成期は平年に比べ1日早い6月23日となった。

今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日早い7月14日頃と見込まれる。

表1 「てんたかく」の生育状況（7月1日 生育観測ほ）

年次	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD		
R7	4月30日	65.1	28.3	582	12.0	4.3	38.3	6月23日	(7月14日)
R6	5月2日	63.6	31.6	674	12.3	4.2	39.5	6月25日	7月16日
平年	5月3日	62.6	30.0	647	12.0	4.4	39.1	[6月24日]	[7月15日]
前年比・差	-2	102	90	86	-0.3	0.1	-1.2	-2	(-2)
平年比・差	-3	104	94	90	0.0	-0.1	-0.8	-1	(-1)

注1) 平年 : H27~R6の平均、ただし幼穂形成期、出穂期の平年値[ ]は、R2~6年の平均

注2) 本年の出穂期は予測値

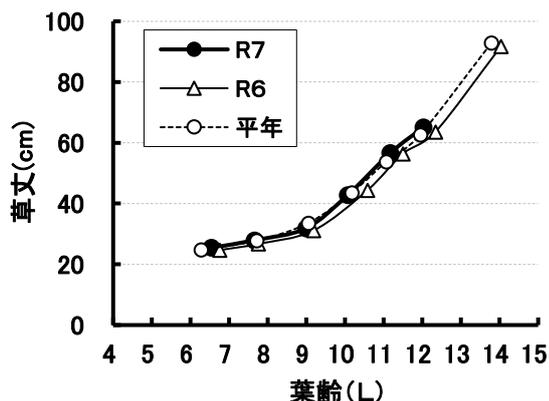


図2 草丈の推移（生観てんたかく）

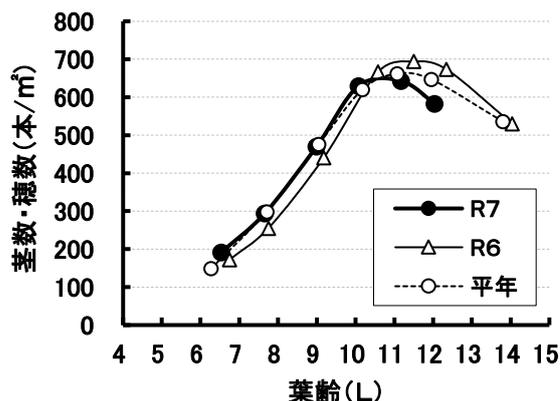


図3 茎数の推移（生観てんたかく）

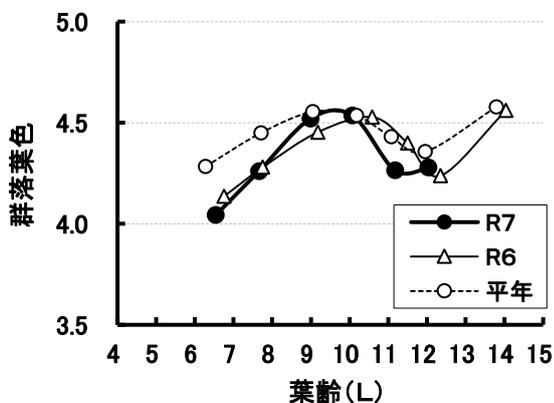


図4 葉色の推移（生観てんたかく）

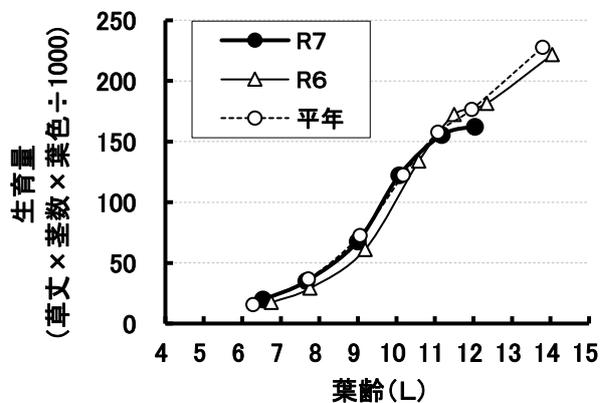


図5 生育量の推移（生観てんたかく）

## (2) コシヒカリ

平年に比べ、草丈は長く、茎数は並、葉色はやや淡く、葉齢は0.2葉進んでいる。  
葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数及び葉色は平年並となっている。

幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日頃と見込まれる。

表2 「コシヒカリ」の生育状況（7月1日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD	
R7	5月13日	61.6	24.8	531	11.2	4.1	36.6	(7月10日)
R6	5月14日	58.1	25.4	541	11.1	4.0	36.0	7月10日
平年	5月14日	56.1	25.1	546	11.0	4.2	37.2	7月11日
前年比・差	-1	106	97	98	0.1	0.1	0.6	(0)
平年比・差	-1	110	99	97	0.2	-0.1	-0.6	(-1)

注1) 平年 : H27~R6の平均

注2) 本年の幼穂形成期は予測値

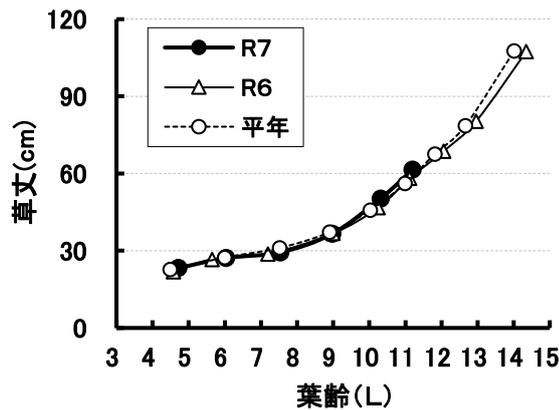


図6 草丈の推移（生観コシヒカリ）

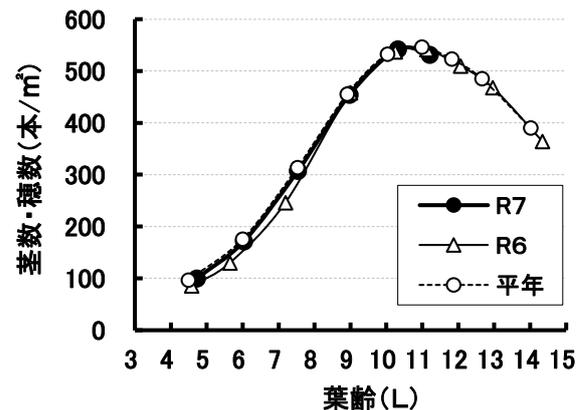


図7 茎数の推移（生観コシヒカリ）

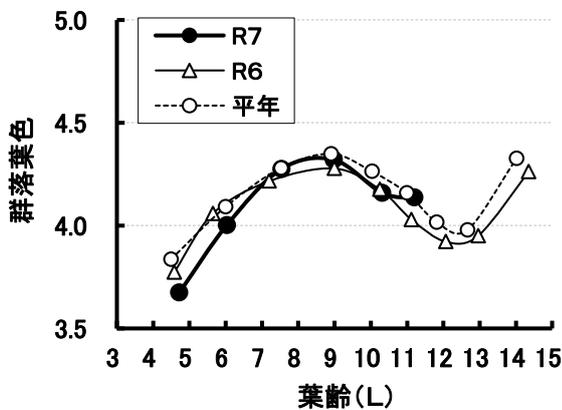


図8 葉色の推移（生観コシヒカリ）

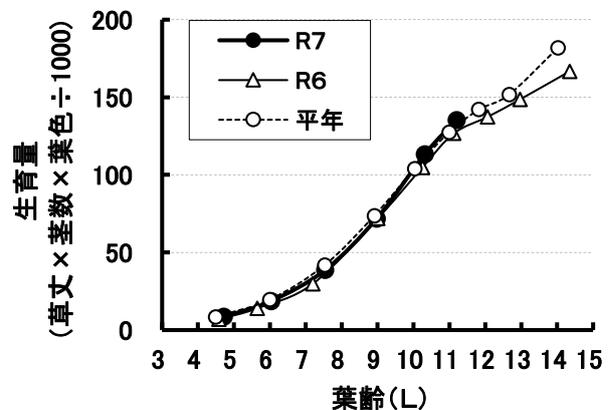


図9 生育量の推移（生観コシヒカリ）

### (3) てんこもり

平年に比べ、草丈、茎数及び葉色は並、葉齢は0.3葉遅れている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並となっている。

幼穂形成期は、平年に比べ1日遅い7月13日頃と見込まれる。

表3 「てんこもり」の生育状況（7月1日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD	
R7	5月12日	49.8	35.1	684	11.8	4.3	38.4	(7月13日)
R6	5月8日	53.6	36.5	692	12.6	4.2	38.9	7月10日
平年	5月8日	49.2	35.4	673	12.1	4.2	37.4	7月12日
前年比・差	4	93	96	99	-0.8	0.1	-0.5	(3)
平年比・差	4	101	99	102	-0.3	0.1	1.0	(1)

注1) 平年 : H27~R6の平均

注2) 本年の幼穂形成期は予測値

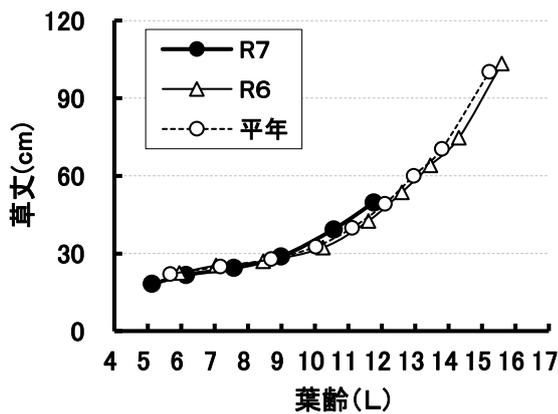


図10 草丈の推移（生観てんこもり）

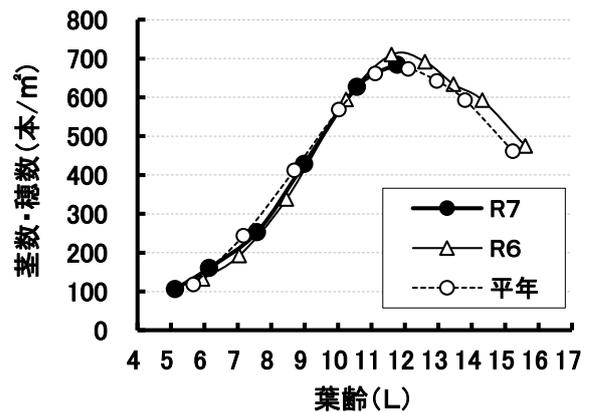


図11 茎数の推移（生観てんこもり）

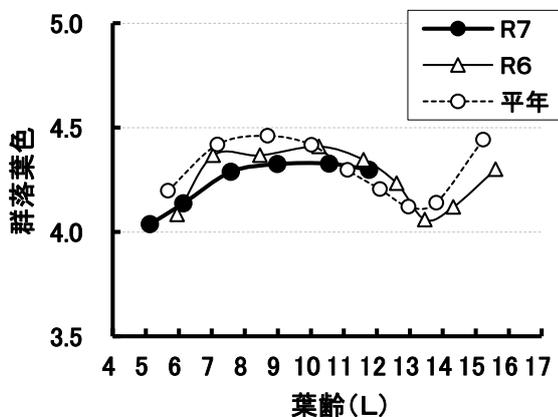


図12 葉色の推移（生観てんこもり）

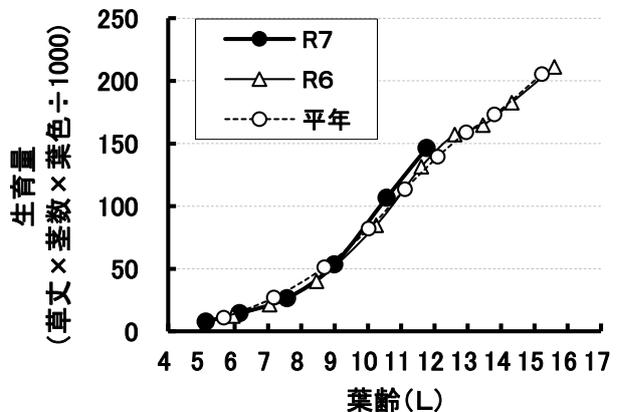


図13 生育量の推移（生観てんこもり）

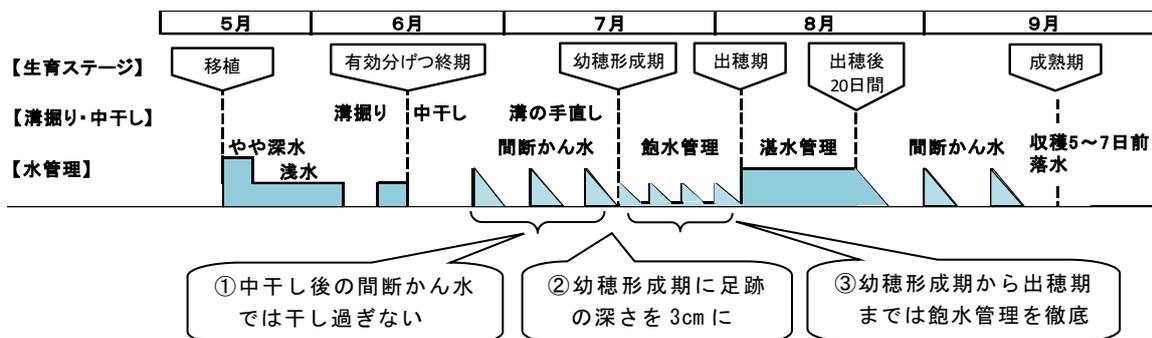
### 3 当面の技術対策

- ・ 今後、高温・少雨が予報されていることから、葉色の急激な低下を防ぐため、田面を乾かしすぎないように間断かん水を行う。
- ・ 幼穂形成期から出穂期までは、稲体活力を維持するため、飽水管理を徹底する。
- ・ 斑点米カメムシ類の発生量がかなり多くなっていることから、速やかに畦畔等の草刈りを行う。

#### (1) 共通管理

- ・ 今後、高温・少雨が予報されていることから、葉色の急激な低下を防ぐため、干し過ぎの水管理にならないように注意する。
- ・ 幼穂形成期までは間断かん水を行い、足跡の深さ3cm程度の土壌硬度に誘導する。
- ・ 幼穂形成期から出穂期までは、稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を徹底する。

#### <今後の水管理のイメージ>



#### (2) 「コシヒカリ」の管理

- ・ 肥効調節型基肥栽培では過剰籾数や倒伏を防ぐため、幼穂形成期頃の追肥は原則施用しない。
- ・ 分施肥栽培では、穂肥は幼穂形成期の生育量（表4）に応じて表5を目安に施用する。

表4 「コシヒカリ」の目標生育量（分施肥栽培）

生育	幼穂形成期	幼形期から7～9日目 (幼穂長15mmの時期)
草丈	72cm	82cm
茎数	470本/m <sup>2</sup>	430本/m <sup>2</sup>
葉色	3.8	3.6

表5 「コシヒカリ」の分施肥栽培における穂肥施用量の目安

幼穂形成期の生育量	1回目穂肥		2回目穂肥	
	時期	N施肥量 (kg/10a)	時期	N施肥量 (kg/10a)
適正	幼穂形成期7～9日後	1.5	1回目の7日後	1.5～2.0
やや過剰	幼穂形成期9～11日後	1.0～1.5	1回目の7日後	1.5～2.0
過剰	施用しない		出穂の7日前	1.5～2.0

注) 過剰：葉色が4.0以上で茎数が550本/m<sup>2</sup>

### (3) 「てんたかく」の管理

- ・今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日早い7月14日頃と見込まれる。
- ・現在、茎数がやや少なく葉色がやや淡くなっていることから、出穂期までは稲体活力を維持するため、飽水管理を徹底する。
- ・肥効調節型基肥栽培では、過剰籾数や倒伏を防ぐため、追肥は原則施用しない。ただし、現在の葉色が4.0（砂壤土4.2）より淡い場合は、速やかに窒素成分で1.0kg/10a程度の追肥を行う。

### (4) 「てんこもり」の管理

- ・幼穂形成期前に葉色が4.0（砂壤土4.2）より淡い場合は、速やかに窒素成分で1.0kg/10a程度の追肥を行う。

### (5) 病虫害防除の徹底

#### ①斑点米カメムシ類

- ・現在、畦畔・雑草地及び本田における斑点米カメムシ類がかなり多くなっている（畦畔・雑草地のすくい取り調査頭数19.4頭、平年比281%、6月20日農業研究所調査）ため、速やかに（7月6日まで）畦畔等の草刈りを行う。
- ・早生品種の防除は、粉剤又は液剤体系とし、穂揃期（出穂3～5日後頃）とその7日後の傾穂期の2回防除を徹底する。なお、今後は高温により出穂期が早くなる場合があるため、防除適期を逃さないように注意する。
- ・近隣に雑草地や麦あとと不作付地等があると、斑点米カメムシ類が侵入するおそれがあるので防除を徹底する。

#### ②紋枯病（紋枯病の初発確認日：前年7/5、平年6/26）

- ・前年多発したほ場などでは、出穂3～4週間前の粒剤散布や穂ばらみ期の防除を行う。
- ・本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し、適期に薬剤が株元に付着するように散布する。
- ・箱施薬剤と本田防除の体系防除を行う場合は、同一系統薬剤を連用しない。

表6 紋枯病の薬剤散布適期と要防除基準

品種	要防除水準 (発病株率)	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)
てんたかく	5%	出穂14日前頃
コシヒカリ・富富富	15%	出穂10日前頃
てんこもり	15%*	出穂7日前頃

\*てんこもりの要防除水準は暫定値

③いもち病（葉いもちの初発確認日：前年7/10、平年7/10）

- ・現在、県内でいもち病の発生は確認されていないが、BLASTAM情報（農業研究所）を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM情報（葉いもち予測システム）はこちらから



（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）



④白葉枯病

- ・常発地等では、出穂3～4週間前にオリゼメート1キロ粒剤等を散布する。
- ・ほ場が浸水や冠水した場合は、白葉枯病が発生しやすくなるため薬剤を散布する。

⑤稲こうじ病

- ・常発地や前年に発生が多かったほ場では、出穂の10～15日前（銅剤は出穂の10～20日前）に薬剤防除を行う。

⑥着色米（斑点米を除く）、ごま葉枯病

- ・稲体活力の低下により発生が助長されることから、適正な施肥、水管理を行う。

農薬散布に際しては、周辺住民への事前の周知と農薬の飛散防止を徹底する。

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈は長く、茎数、葉色は並、葉齢は0.2葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並となっている。

幼穂形成期は、近年並の7月13日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（7月1日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD	
R7	5月17日	54.0	26.8	585	10.8	4.4	41.1	(7月13日)
R6	5月17日	52.9	28.4	621	10.8	4.3	40.5	7月13日
近年	5月15日	48.5	27.1	585	10.6	4.3	40.0	7月13日
前年比・差	0	102	94	94	0.0	0.1	0.6	(0)
近年比・差	2	111	99	100	0.2	0.1	1.1	(0)

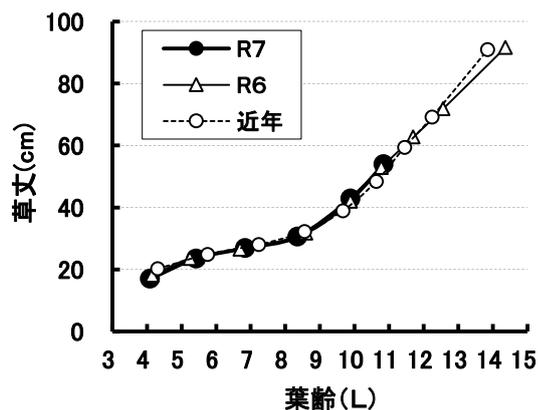


図1 草丈の推移（富富富生育観測ほ等）

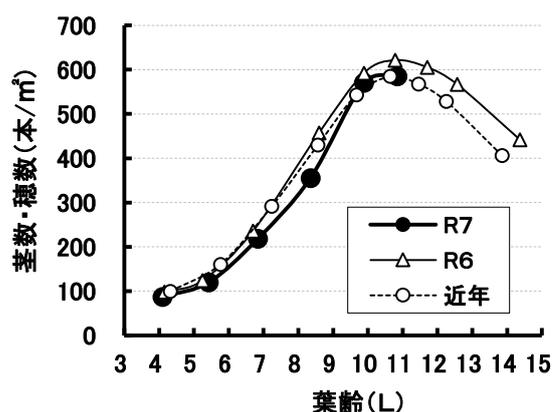


図2 茎数の推移（富富富生育観測ほ等）

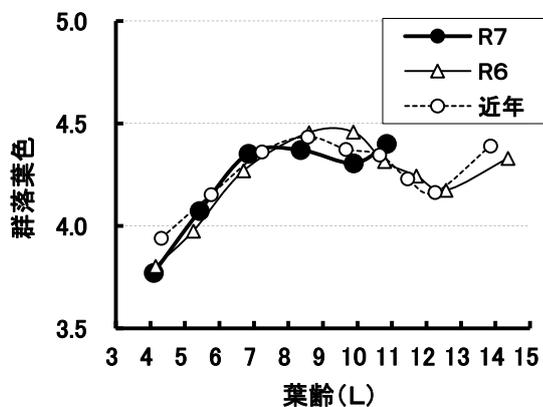


図3 葉色の推移（富富富生育観測ほ等）

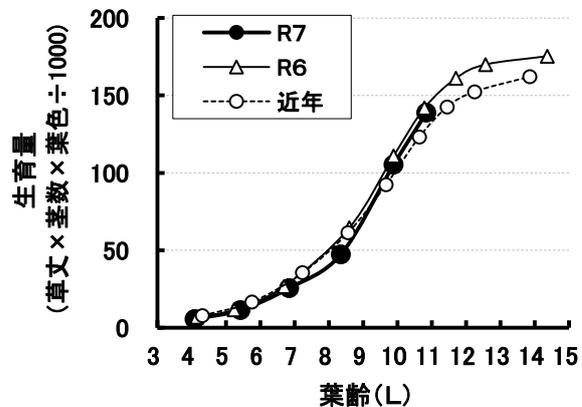


図4 生育量の推移（富富富生育観測ほ等）

## 2 当面の技術対策

- ・今後、高温・少雨が予報されていることから、葉色の急激な低下を防ぐため、田面を乾かしすぎないように間断かん水を行う。
- ・幼穂形成期から出穂期までは、稲体活力を維持するため、飽水管理を徹底する。

### (1) 水管理

- ・今後、高温・少雨が予報されていることから、葉色の急激な低下を防ぐため、「富富富」慣行よりも落水期間の短い間断かん水（「コシヒカリ」と同様の水管理）を行い、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導する（表 2）。
- ・ただし、葉色が濃い場合（群落葉色 4.5 以上、SPAD40 以上）は「富富富」慣行の水管理（落水期間が長めの間断かん水）を行う。
- ・幼穂形成期から出穂期までは、稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。ただし、葉色が濃い場合は間断かん水を行う。

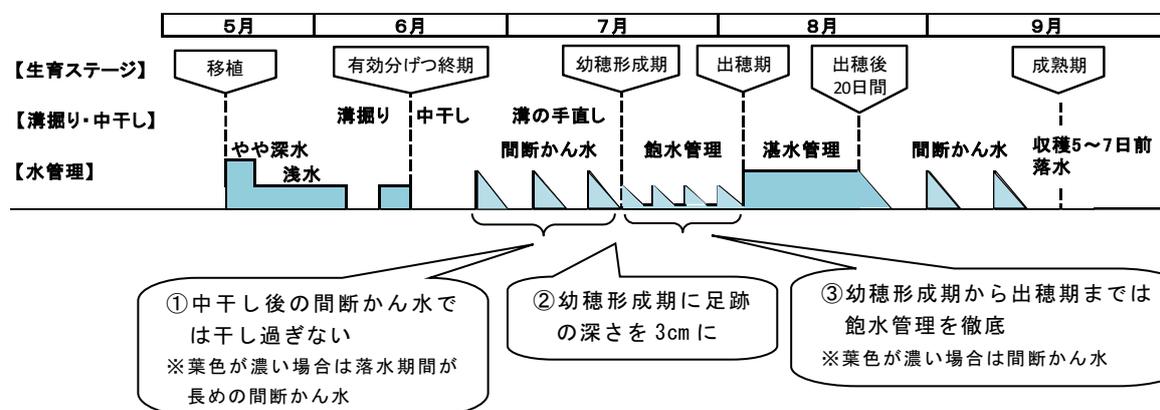
表 2 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	SPAD	群落葉色	生育量	
				SPAD	群落葉色
62	580	35	4.0	125	140

注) 生育量 SPAD : 草丈×茎数×SPAD÷10,000

群落葉色 : 草丈×茎数×群落葉色÷1,000

### <水管理のイメージ>



### (2) その他の管理

- ・病虫害及び雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるように留意する。
- ・残草がある場合は、草種に対応した液剤等を用い、除草剤が雑草に確実に付着するように丁寧に散布する。

[参考 富山地方気象台 2週間天気予報 (2025年7月1日17時更新)]

